

令和4年度(2022年度)第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況一覧表

資料2-2

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度事業計画	令和4年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	<p>土日の開館時間の2時間延長と祝日の特別開館を継続実施し、利用者の利便性向上を図る。</p> <p>市内50か所に設けたステーションに火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションには2週間に1回の頻度で巡回する。また、新たなステーションの設置を検討する。</p> <p>並木・広岡・大穂・豊里・鳥名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続するとともに、さらなる利便性向上のため、新たなブックポストの設置について検討を進める。</p>	<p>土日の開館時間の2時間延長と祝日の特別開館を継続して実施し、利用者の利便性向上を図った。また、市役所コミュニティ棟での予約本貸出サービスを開始した。</p> <p>火曜日から土曜日に自動車図書館車を使って巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。既存の2台の自動車図書館車両に加え、新たに1台を導入するとともに、新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを50か所から54か所に増やしサービスの拡充を図った。</p> <p>並木・広岡・大穂・鳥名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続し、利用者の利便性向上を図った。</p>	4,668千円	4,512千円	2	b	B	利用が少ないステーションがあり、新規ステーションの開拓とステーションの見直しが必要である。	巡回するステーションの見直しを行い、新規ステーション開拓のために現地調査を行う。各ステーションにおける利用を増やすため、積極的に広報を行う。	特になし
			1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	<p>生涯学習活動として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。</p> <p>また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。</p> <p>地域交流センターにおけるWi-Fi環境について、荃崎・竹園・並木の3地域交流センターに整備を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での貸館運営であったが、利用者数の実績値が目標値を上回ることができた。</p> <p>交流センターのWiFi環境整備にあたり、予算流用等により工事費を確保したため、目標値を上回る整備ができた。</p>	331,946千円	363,587千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし
							年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数55,000冊 返却窓口への返却冊数130,000冊	年間開館日数280日 年間開館時間2,640時間 自動車図書館利用人数12,257人 自動車図書館貸出冊数43,141冊 返却窓口への返却冊数129,626冊								
							地域交流センター利用者数280,000人 地域交流センター登録団体1,300団体 Wi-Fi環境の整備3施設	地域交流センター利用者数355,351人 地域交流センター登録団体684団体 Wi-Fi環境の整備6施設								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業等での講座実施回数を昨年度より増やすことを目標とし、そのために周知活動を強化する。具体的には、市内の企業や研究所が集まる会議体(例:筑波研究学園都市交流協議会)への事業周知を積極的に実施する。 また、今後の民間企業等が求める生涯学習講座へ進化させるための検討材料としてアンケートの実施を検討する。	つくば市出前講座について、民間企業及び研究機関において2回実施をすることができた。また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。	24千円	0千円	2	a	A	民間企業の意向に応じたコンテンツの開発を必要とする必要がある。	令和5年(2023年)4月に実際に回答を収集するアンケートの結果を分析し、今後の展開を検討する。	特になし
							民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数5回	民間企業等での講座開催数2回 周知活動実施回数6回								
			1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	生涯学習推進課で実施する事業の動画配信(同時配信、アーカイブ方式含む)を継続して実施していく。	以下の事業で動画配信を実施した。 ・社会力コーディネーター養成講座 5回 ・家庭教育学級 58学級 ・社会教育講演会 2回 ・つくばちびっ子博士 1回 配信動画の満足度は、最も動画視聴された事業である「つくばちびっ子博士」事業アンケートにおいて来年度も動画視聴コンテンツを「とても利用したい」と回答した割合で算出し、目標を達成することができた。	202千円	93千円	2	a	A	新型コロナウイルスの感染状況に合わせ対面講座が増えていった際の動画配信の位置づけが難しい(対面のほうが効果があるが、配信があると配信に人が流れてしまう等)	今後も受講者のニーズを把握しながら、必要に応じて動画配信を継続していく。	特になし
					動画配信回数5回 配信動画の満足度60%	動画配信回数66回 配信動画の満足度61%										
			1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を行った上で、夜間や休日に地域交流センター講座を開講することで、夜間休日における学習機会を提供する。	冬の天体観測や歴史探訪、親子向け工作等の講座を休日に実施した。	5,530千円	3,434千円	2	b	B	特になし	特になし	特になし
						夜間休日の講座の開講12回	夜間休日の講座の開講6回									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	つくば市ホームページの改修をとおして、生涯学習情報を市民が見やすく・問合せしやすい状態を作り出し、市民から生涯学習に関する相談が寄せられる環境づくり(ホームページ上での相談窓口開設等)を行う。 また、オンラインによる生涯学習相談に関する他自治体の先進事例についてヒアリング等による調査を実施し、事業改善の参考とする。	民間企業からつくば市の生涯学習サービスの活用に関する相談と民間企業のCSR活動を市民の生涯学習につなげる相談をそれぞれ1件ずつ受け、実現につなげることができた。 オンラインでの生涯学習に関する相談について、首都圏の2都市に関する調査を実施した。 また、つくば市と株式会社Bloom Actで実施されたオンライン相談システム「Rooms」の共同研究に参画し、令和5年1月から3月までオンライン相談の受付を行った。	0千円	0千円	2	b	B	・「生涯学習の相談をオンラインで行う」ということに対する潜在的ニーズを測ることができていない。 ・民間における先行事例に関する文献では、「ビデオ会議システムよりチャットの方が利用されやすい」というものもあり最適な方法が発見できていない。	引き続き、幅広く生涯学習に関する情報を発信するなかで、相談を受け付ける姿勢を強く打ち出し、市民が相談をしやすい環境を創出していく。	特になし
			1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市報等において、市民にわかりやすい生涯学習に関する新たな情報発信を実施する。 つくば市ホームページの改修をとおして、つくば市の生涯学習関連情報を市民が分野横断的で簡単に入手することができる環境を作る。 つくば市が令和4年(2022年)4月に供用を開始したスマートフォンアプリ「つくスマ」を積極的に活用し、プッシュ型の通知で市民に情報提供を行う。	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 令和4年度から本格的に運用が開始されたスマートフォン向けアプリ「つくスマ」については、積極的に利用を生涯学習推進課所管事業全体で推進することができた。	0千円	0千円	2	b	B	生涯学習という概念が広範であることから、情報の一元的な発信について、その内容の整理が難しい。	引き続き広報戦略課と連携し、生涯学習に関する魅力的な情報発信を研究していく。	特になし
						相談数3件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回	相談数2件 ホームページ改修回数1回 他自治体への調査2回									
						広報紙1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数10回	広報紙0回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数17回									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	1-(1)-ウ「情報収集・発信事業」と連動して、つくば市ホームページ改修をとした生涯学習情報発信のワンストップ化を進める。 生涯学習講座における配慮事項を示した指針について、他自治体の先進事例を研究し、ヒアリング等調査により作成に向けた検討を行う。	市民に今までよりわかりやすく情報を発信するため、つくば市生涯学習指導者登録の内容をリニューアルし、併せてホームページを改修した。 生涯学習講座に関する配慮事項の指針について、国内の事例3件について調査を行い、今後の検討の参考とすることとした。	0千円	0千円	2	a	A	つくば市においても障害を持った方全体に向けた対応の要領はあるが、生涯学習の現場で実用的に使用できるものには至っていない。	障害を持った方と協働して取り組む生涯学習の機会を積み重ね、その経験や気づきを中長期的にまとめていきたい。	特になし
			1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	職員それぞれの広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、昨年に引き続き対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	今年度も新型コロナウイルス感染症に配慮し、対面型(会場参加)と動画配信型(Zoom配信、後日動画配信)を選択できるよう工夫し、職員一人一人の業務形態に合わせたセミナーを実施した。 また、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	12千円	0千円	1	a	S	セミナーは、開催形式やテーマによって、参加者数にバラつきがある。	セミナーの開催形式やテーマについて、課内で重点的に検討する。	特になし
			1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催) (外国にルーツを持つ子ども達対象:プレスクール・プレクラス、こども日本語勉強会、就学・進学支援を開催)	多言語ホームページの発信において、目標値を大幅に上回る発信ができた。日本語講座について、2020年度に開始したオンライン講座(大人)と、感染症対策がなされた対面講座(こども)の両方を取り入れて実施することができた。	1,497千円	3,837千円	2	a	A	日本語講座について、対面授業をする場所の確保が難しい。	つくばセンタービルリニューアルオープン後は、施設内に日本語講座用の部屋の確保ができる見込み。	特になし
						ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回	ホームページ改修回数1回 他自治体への調査3回									
						セミナー参加者150人	セミナー参加者259人									
						外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数240人 こども日本語勉強会の登録者数30人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数252回 大人向け日本語講座の受講者数214人 こども日本語勉強会の登録者数22人									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
			No.	事業名	事業概要	担当課					令和4年度事業計画	令和4年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	令和4年度は、「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。 開催回数2回 講座参加者の満足度80%	令和4年度は2回の事業を展開した。 【風船バレー教室】 障害者自身が「みんなでやってみよう」とを挙げ、どれにするか選択し、事前準備や当日運営にも参画するつくば市と福祉型専攻科シャントイツくば間の共同事業として実証的に実施した。当日は3つの団体が集まって実施し、参加者からは普段触れ合うことのない人たちと一緒に取り組むことができたこと等について高い評価を受けた。 【障害者のための生涯学習講座】 障害者の生涯学習を進めていく上での前提となる障害者自身やその障害者を支える周囲の社会状況の理解を深めるため、「きょうだい児」をテーマとした講演会を実施した。 開催回数2回 講座参加者の満足度100%	237千円	99千円	2	a	A	事業を量・質ともに拡大しようとする場合、事業の福祉的要素が強くなるため、庁内における連携強化が求められる。	庁内連携を深めながら、事業の推進を図っていく。	特になし
			1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。 男女共同参画セミナー10回	防災、女性のエンパワーメント、健康、性的マイノリティ等をテーマに計12回実施し、男女共同参画に対する理解を深め、必要な知識やスキルを学ぶ機会を提供することができた。 男女共同参画セミナー12回	8,735千円	7,752千円	1	a	S	特になし	特になし	特になし
			1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者が日常的にスポーツ・レクリエーションに取り組むことができるよう、ニーズや課題を抽出するため、アンケート調査を実施する。併せてスポーツ関連事業者等を対象に、障害者のスポーツ支援に必要な知識を得るための講座を開催する。 また、フェスティバル内で障害者スポーツ体験コーナーを設置したり、スポーツ教室の1つで、車いすバドミントン教室を開催するなど、障害者スポーツに親しむ機会を設ける。 講座の開催数2回 講座の参加延べ人数20人 障スポサポーター登録者数10人	令和4年度はこれまでと形を変え「つくば市障害者スポーツ推進プランフォーラム」として、ディスカッション形式で、障害者スポーツサポーター養成講座を実施した。障害者支援施設やスポーツ施設の職員や相談支援専門員など、スポーツや障害者に係わる方が参加し、課題の解決に向けた話し合いを行うことができた。 また、「スポーツフェスティバル&つくパラ」や障害者スポーツを体験できる教室などを開催し、障害者スポーツに触れる機会を提供することができた。 講座の開催数1回 講座の参加延べ人数10人 障スポサポーター登録者数4人	740千円	426千円	2	c	C	障害者が身近で気軽にスポーツをするためのシステムや支援体制の構築や環境の整備	令和5年度は障害者スポーツのサポーター養成講座について、スポーツ推進委員を対象として実施し、支援体制の構築を試みる。また、実際に障害者がスポーツ施設を体験利用する講座を開催する。	特になし
			1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、前年度実施できた展示や映像作品の上映のほか、舞台発表実施の検討を行う。茨城県庁やつくば市役所庁舎内での巡回展示による、一般市民への広報は引き続き取り組む。おひさまサンサン生き生きまつりの開催は検討とする。手話奉仕員養成講座は7月からの開催、音訳・点訳・要約筆記の奉仕員養成講座は9月以降の開催を予定する。 チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,150人 奉仕員養成講座受講者数55人	チャレンジアートフェスティバルは、三年振りに舞台発表を実施することができた。県庁展や市役所展を開催することにより、一般市民に対する事業周知を行った。おひさまサンサン生き生きまつりは中止としたが、今後の実施について高齢者及び障害者団体からの意見を伺った。奉仕員養成講座事業は、参加者へ感染防止対策をとっていたり、日程を調整するなど、参加者の不安軽減に努めた。 チャレンジアートフェスティバルへ参加者数2,053人 奉仕員養成講座受講者数56人	11,958千円	6,213千円	2	a	A	作品展の来場者数は増加傾向にあるものの、コロナウイルス感染拡大の影響により舞台発表の来場者数が平成30年度実績の約3分の1となっている。奉仕員養成講座事業は、参加者への感染対策や実施方法を工夫したため一定の参加者を得られた。	イベント周知の方法を検討し、一般市民に対する広報活動を行う。奉仕員養成講座事業の参加者募集については、PRするなど成果向上の工夫に取り組む。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を継続して提供していく。各講座においてはアンケートを実施し、次年度以降の開催に関する意見を集め、魅力的な事業の展開に活かしていく。	市民と協働して組織する「つくば人間学講座実行委員会」にて、講座内容を決定し、以下の4講座を開催した。 ・人工知能(AI)と人間はどう付き合っていくか 2022(2022/7/30@市民ホールやたば) ・ある日、アートの偉大な力に気づいた人間の話(2022/9/10@アルスホール) ・歌舞伎は日本のオペレッタお能は日本のオペラです パート12(2022/11/26@つくば市役所) ・ツボを知る 心と体の手当で免疫力UP↑(2023/1/28@アルスホール)	262千円	290千円	2	b	B	・新型コロナウイルス感染症の影響も受け、目標としていた参加者数に実績が届かなかった。 ・「学園都市の特徴を活かした学びの機会を手軽に提供する」として平成7年に事業が始まってから時間が経過し、つくば市の環境・住民とも変化が起きており、参加者の新たな層の掘り起こしが進んでいない。	引き続き実行委員会の中で、市民と十分に意見交換を行いながら、市民が興味を持ち、満足してもらえる講座の実施に努める。	特になし
			2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	9月~1月にかけて、大河ドラマに関連した小田氏と小田城について紹介する催事を、関連事業として10月に体験講座を、11月に講演会を実施する。 市域の江戸時代の古文書を題材にした、古文書講座を7~9月に全7回実施する。 文化財保護強調週間と関連して、平沢官衙遺跡周辺を歩いて解説するウォーキングイベントを11月に実施する。	・古文書講座を7~8月で再開することができ、26名の参加者があり、初心者を含めて古文書や地域の歴史に親しむことができた。 ・巡回企画展「鎌倉殿の御家人『八田知家』とつくば」を9月~2月で開催し、企画展約2,500人、講演会82人、体験講座22人(市内在住、在学、在勤者)の来場者及び参加者を得た。 ・10月に「大河ドラマ『鎌倉殿の13人』スペシャルトークinつくば」を実施し、市内外から約1,000名の来場者を得た。 ・いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。	2,747千円	8,558千円	1	a	S	古文書講座について、アンケートの満足度が高い一方で、難易度についての意見や、また多くの人が参加できるような機会を望む声が多かった。	市民の要望や期待にこたえられるよう、隔週開催など工夫しながら初級・中級の2講座を開催する。	特になし
			2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、ジュニア図書館員受入れ、社会科見学・職場体験学習受入れ、司書教諭及び司書教諭補助員等の研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座、ワークショップなど、各種イベントを行う。 参考資料を充実させるとともに、電話やインターネットからの調査・研究の質問を受け付け、専門職員から資料情報を提供する。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校図書館司書教諭及び司書教諭補助員等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。	1,122千円	1,069千円	2	b	B	新型コロナ感染症対策拡大により、イベントの縮小や中止が続いたが、今後はコロナ前の状態に戻して各種イベントを計画、開催していく必要がある。	引き続き感染症対策を行い、各種イベントを開催する。 各種イベントやレファレンス業務について積極的に広報を行う。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	つくば市国際交流協会主催の国際理解講座「世界お茶のみ話」は予定通り対面で実行することができた。日中国交正常化50周年にあたり、友好都市である中国・深圳市の高校生とつくば市の高校生によるオンライン交流を実施したほか、フランス・グルノーブル日本語補習校とつくば市の小学生親子によるオンライン交流を実施するなど姉妹都市・友好都市と交流を深めることができた。	0千円	95千円	1	a	S	外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れる機会が少ない。	つくばセンタービルリニューアルオープンに合わせ、つくば市国際交流協会が国際交流ラウンジを運営し、外国人市民向けのイベント等が実施される予定。	特になし	
			2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法等を学ぶ機会やスポーツを始める機会を提供する。	【開催した教室】 バドミントン、トレイルラン、心と体をほぐすヨガ、スラックライン、体幹ムーブメント、ランニング、車いすに座ってできるスポーツ体験、スプリント、子どもの体験教室(低学年)、子どものスポーツ体験教室(高学年) 実績は目標値には達しなかったものの、感染対策を講じつつ各種教室を開催することができた。	3,354千円	1,614千円	2	b	B	民間で実施しているスポーツ教室等との別化やスポーツをはじめのきっかけとなるような教室の選定	令和5年度は子どものスポーツ体験教室やスポーツの基本となるランニング教室、障害者スポーツに関する教室などを実施する。	当初設定していた主な取組の実施形式(指標)について、実績値を出すことが困難なため、左記「教室の参加者数(延べ人数)」に変更した。なお、変更後の指標の目標値については、つくば市事務事業評価で設定している目標値(750人)として計算している。	
			2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	文化芸術課(令和5年度から地域支援課所管)	新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を行った上で、講座を開講する。利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での講座実施であったが、参加者がやや増加したこともあり、目標値を上回ることができた。	5,530千円	3,434千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし	
			2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和4年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、将来的に、より多様で充実した生涯学習講座を実施するため、これまでの実績を整理し、今後の方針を検討する。	令和4年度は、筑波山地域ジオパークとしても、生涯学習を目的とした企画(47回)、部会、シンポジウム、ジオガイドのスキルアップ講座を実施するなど、地域を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパークでは、教育・学術部会で実施可能な生涯学習講座の整理をはじめた。	8,012千円	6,059千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし	
						世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数2回	世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等と連携事業数3回 姉妹都市等との連携イベント数5回										
						教室の開催数12回 成人の方が教室参加後、今後もスポーツを続けたいと思った人の割合(スポーツを継続者も含む)65%	教室の開催数10回 教室の参加者数(延べ人数)589人										
						年間講座数102回	年間講座数108回										
						市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数3回 部会開催数11回 ジオガイド講座開催数4回 学術シンポジウム開催数1回										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点 令和4年度 事業計画	年度内の実績 令和4年度 事業の成果・達成状況	事業費予算 単位:千円	事業費決算 単位:千円	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課					実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	<p>出前講座事業について、新規講座を立ち上げ、市民が継続して生涯学習に取り組む支援をおこなう。</p> <p>また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出するための検討を行う。</p> <p>出前講座新規講座1講座 周知活動回数5回</p>	<p>令和4年度は、以下の2つの新規出前講座を開設することができた。</p> <p>○人権・同和問題について(地域改善対策室)</p> <p>○今日からはじめる！基本的な感染症予防対策！(感染症対策室)</p> <p>また、更なる利用促進を目指し、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地に対するつくば市出前講座のPRとアンケートの実施の決定をすることができた(令和5年4月実施)。</p> <p>出前講座新規講座2講座 周知活動回数6回</p>	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習推進の活動継続における市民ニーズを正確に把握し、必要な施策を展開していく必要がある。	生涯学習推進課で展開する各種事業において、積極的に生涯学習に関する意見を収集し、今後の展開の参考としていく。	特になし
			2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	<p>家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。学級の運営について、社会教育指導員が指導・助言を行い、講演会や学習会を開催する。</p> <p>家庭教育学級5,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー39回</p>	<p>家庭教育学級については、多くの講座を動画配信で実施することで、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても事業規模を確保することができた。社会教育講演会については、下記の内容で2回実施した。</p> <p>①10月22日「いじめの予防最前線～大人も子どもと共に学びましょう～」参加者38人</p> <p>②3月4日「その瞬間生き残れるか。」参加者35人</p> <p>家庭教育セミナーについては、学校にすべての保護者が集まる行事を利用して家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会として実施した。</p> <p>家庭教育学級4,917人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー60回</p>	3,320千円	1,628千円	2	a	A	動画視聴は隙間時間で家庭教育情報が得られるメリットがあった一方、保護者間のつながりの希薄化から子育ての不安やストレスを共有できる仲間づくりができず、子育てが孤立するデメリットが浮き彫りになった。	不安やストレスを解消するため、子供を取り巻く身近な問題を語り合い共有して、「対話とつながり」に重点を置いた家庭教育学級を開催する。具体的には、対面講座を軸に保護者同士が直接会い話し合える場を提供していく。	特になし
			2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	<p>1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動し、情報提供数増に向けた周知活動を実施する。</p> <p>指導者リストの更新及びホームページの改修を行い、市民が利用しやすい情報提供体制を構築する。</p> <p>周知活動回数5回 情報提供数20回 ホームページ改修回数1回</p>	<p>つくば市指導者登録制度について、指導者の登録カテゴリを市民が利用しやすいように再整理を行う等、制度のリニューアルを行い、「学びのつくバンク」という愛称を設定した。</p> <p>情報提供回数は昨年度より大きく増加し、また、上記のリニューアルに併せてホームページの改修も行うことができた。</p> <p>周知活動回数3回 情報提供数37回 ホームページ改修回数1回</p>	0千円	0千円	1	a	S	・情報提供数の更なる増加を図っていく必要がある。 ・令和4年度に数年ぶりに指導者の登録状況を指導者に確認をとった上で整理したところ、指導者の数が減少した。	事業別だけでなく、生涯学習施策全体で広報活動を展開するという発想をもって事業を進めようと効果的な周知ができると思料する。	特になし
2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	<p>小・中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。</p> <p>新たに中学校1校(体育館・武道場)、義務教育学校1校(大体育館)の計2校を開放する。</p> <p>つくば市学校開放新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づき、感染拡大に注意しつつ事業を運営する。</p> <p>施設開放の制限については、国や県の制限、学校からの要請等に準拠する。</p> <p>小学校施設開放事業90% 中学校施設開放事業90% 義務教育学校施設開放事業90%</p>	<p>小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。</p> <p>新たに中学校1校、義務教育学校の1施設を開放した。</p> <p>また、重複申請を行っていると思われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。</p> <p>小学校施設開放事業95% 中学校施設開放事業98% 義務教育学校施設開放事業100%</p>	50千円	24千円	2	a	A	学校開放事業は社会体育に寄与する目的である。使用団体はスポーツ少年団、地域の高齢者団体、社会人団体、営利目的と思われる団体等多岐にわたることから、学校開放事業の在り方について、社会体育部門であるスポーツ振興課や市スポーツ協会を含めた協議・見直しが必要である。	優先すべき団体の位置づけや、使用時間の考え方、使用団体の決定の方法等が主だった改善点と考える。	特になし			

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの影響もよりボランティアの活動機会がほとんどなかったものの、登録者は当初の目標を達成することができた。 今年度も、感染症対策を徹底しながら10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 また、新型コロナウイルスの影響で解説依頼が激減している中、登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、学校支援業務への協力、文化財の見回り、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。	・10月～12月に谷田部・桜地区の解説を目標とした第4回解説ボランティア養成講座(全6回)を開催、修了者8名のうち新規登録者8名で、計31名となった。 ・大河ドラマトークショーのイベント補助や、学校授業における展示施設の解説をボランティア登録者へ依頼し、協力を得た。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を2回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	237千円	211千円	1	a	S	ボランティア登録者の意欲を維持・継続するため、臨時講座等を学校解説シーズン等前に実施する必要がある。	ボランティア登録者を対象とした臨時講座を開催して登録者の知見を深めるほか、意見交換会を実施して意見を受けることにより、よりよい事業の改善を目指す。	特になし
			2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	昨年度からオンラインでの対応が可能となったことで、感染症の影響を最小限に止め切れ目なく事業を継続するとともに、シニア・エキスパート便覧を改定する(第20版)等の必要な広報活動を実施する。	依然として新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている中ではあるが、パンフレット・便覧の配布やホームページ等における周知を継続的に実施したことに加え、令和5年度以降のV字回復へ弾みをつけるため、高齢福祉課発行のシニア向け冊子へも掲載することで、事業を広く周知した。	9千円	9千円	3	c	D	登録者の高齢化に伴い、活動の継続を断念する場合が見受けられることに加え、定年延長を始めとする雇用制度の変化により新規登録者数が減少傾向にある。さらに、他部署において類似の取り組みがあることや、講師の多くが研究機関や大学との関係があることから、本事業を発展させるに当たっては、生涯学習や科学技術を所掌する他部署と連携する必要がある。	継続した周知を図るとともに、利用者のニーズや登録者の活動意欲に沿った効果的な活用方法を検討する。	特になし
			2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民活動課(令和5年度より市民協働課所管)	市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄付基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を支援する。	市民活動センターが市の直営となり、市民活動課と連携を取りながら、相談事業等市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 また、アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。	6,384千円	4,600千円	2	b	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、市民活動団体等の活動制限により利用者数や相談件数は目標値に達しなかったが、アイラブつくば補助金採択事業数は目標値に達し、一定の実績をあげることができたため。	市民活動センターと連携支援等を行いながら、市民活動団体等の要望等の解決を目指す。また、新たな市民活動拠点として新施設の検討を行う。 アイラブつくばまちづくり補助金交付回数終了後の自主財源確保に向けた採択団体のニーズについて、市公式フェイスブックページ「つくば市民活動のひろば」取材時に調査を行い、課題解決に向けた施策について調査・研究を行う。	特になし
						文化財ボランティア登録人数25人	文化財ボランティア登録人数31人									
						登録者の活動回数700回	登録者の活動回数4回									
						市民活動センター利用者数3,000人 市民活動センター相談件数270件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件	市民活動センター利用者数2,265人 市民活動センター相談件数177件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数30件									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項		
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度事業計画	令和4年度事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。	市民ホールや交流センター、美術館など、つくば市内を拠点として事業を展開した。新型コロナウイルス感染症対策を講じて、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進することができた。 また、本年度新たな試みとして参加・体験型公演としてレクチャーコンサートを実施し、文化芸術に触れる機会の拡充を図ることができた。	1,200千円	1,200千円	1	a	S	・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で当初の計画を上回る事業を展開することができた。 ・今後はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業展開を検討していく必要がある。	令和4年度は、レクチャーコンサートを2回実施した。今後も参加・体験型コンサート等の企画を開催し、多くの市民が文化芸術に触れる機会の拡充を図っていく。	特になし	
			2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、ノバホールやつくばカピオ、市民ホールなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業を全て実施することができた。 文化芸術公演における入場率について、令和3年度が56.8%に対し、令和4年度は70.7%と大幅に上回り、市民ニーズが高く、予想以上の集客が図れた。	55,000千円	49,981千円	2	b	B	・ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業方法・事業展開を検討していく必要がある。ホール公演のみに依存しない企画内容の検討が必要になる。 ・限られた予算の中で、満足度の高い企画を提供していくために、企画の内容、実施方法を検討していく。	・実施する企画内容を精査し、収支バランスを考慮した事業内容について検討していく。 ・アフターコロナを見据え、従来からの市民参加型事業をはじめ、幅広い対象を世代を対象にバランスのとれた各種事業を展開していく。	特になし	
			2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	【各種イベントやシルバークラブ活動への支援】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、129の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。 【シルバー人材センター】 新規入会者64名 退会者99名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	【各種イベントやシルバークラブ活動への支援】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント開催中止や事業規模縮小となったが、内容変更等対策を講じ、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、129の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。 【シルバー人材センター】 新規入会者64名 退会者99名 市からは、施設の夜間当番/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	42,246千円	41,844千円	2	b	B	シルバークラブ会員数が減少傾向にある。	若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。	特になし	
						主催事業の実施10回	主催事業の実施15回										
							文化芸術振興事業の実施23回	文化芸術振興事業の実施20事業									
						シルバークラブ会員数6,670人 単位シルバークラブ数140団体 契約件数4,400件 参加者数600人	シルバークラブ会員数6,113人 単位シルバークラブ数129団体 契約件数2,858件 参加者数536人										

基本方針	施策の柱	施策の方向性	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価				特記事項	
			No.	事業名	事業概要	担当課	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題		今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	令和4年度は「社会力について知る」という令和3年度の講座からバージョンアップし、社会力を生かして活躍していく人材である「社会力コーディネーター」を養成することをテーマとした講座を年5回実施する。 令和5年度以降の社会力を具体的に育成していくための事業展開を検討していく。	社会力に関する講座の実施2年度目として、社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(=社会力コーディネーター)を講師として招き、参加者への学びと動機付けを5回の講座として実施することができた(参加者数198人)。 令和3年度の講座参加者が56人であったことから、社会力という考え方がつくば市内で広がり、興味を持つ人が増えてきたと考えることができる。	650千円	650千円	2	a	A	第3次つくば市生涯学習推進基本計画に合わせ5か年で実施する予定だが、実際に社会力を発揮し活動できるよう、来年度以降はより実践的な内容としていく必要がある。	令和5年度の講座は「実践編」として実施し、講座受講者が実際に「社会力」を発揮して地域で活躍する団体の活動に体験参加する内容を講座に盛り込む。	特になし
			2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民活動課(令和5年度より市民協働課所管)	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。9月に開催を計画している。	地区リーダー勉強会については、令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症の影響から中止とした。令和4年度は、講演のテーマを「巨大地震と豪雨災害への備え」として、災害のリスクについて認識し、自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」に関する内容を市公式Youtubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、参加者(視聴者)が大幅に増え、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	356千円	330千円	2	a	A	各地域のコミュニティ活動をより活性化するため、地域社会のリーダーである区長へ向けた勉強会(講演会等)の内容を引き続き検討していく。	市区会連合会及び各地区会連合会と連携して事業を進めていく。	特になし
			2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	【まちづくりに関する講座の実施】 新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されたが、谷田部地区を対象とした街歩き・グループワークにより多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進グループ及び地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	330千円	180千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし